

著作権契約の都合で、教科書紙面を掲載していません。ご了承ください。

## 「学びの目標」の掲載 表現と鑑賞を相互に関連させたページ構成

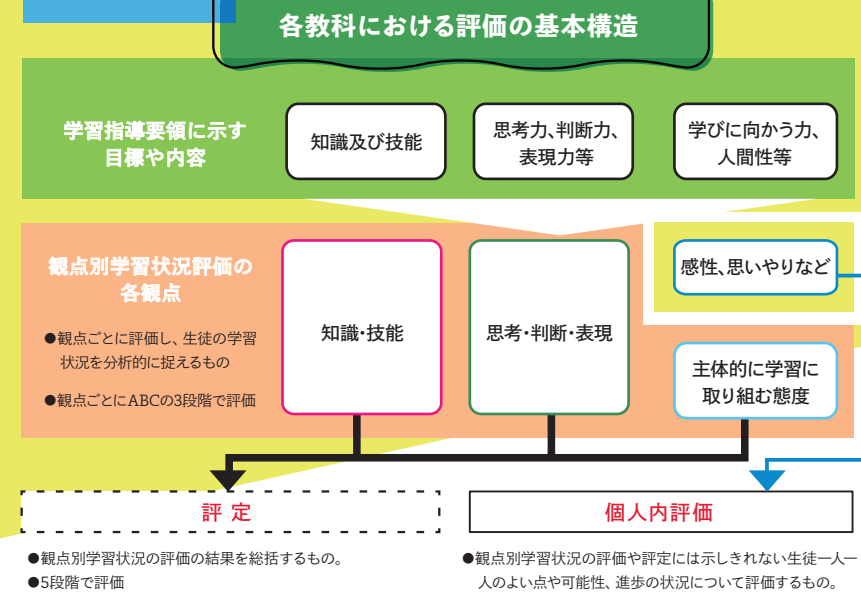
「高校生の美術1」の表現に関するページでは、表現の発想や構想に関する資質・能力と鑑賞に関する資質・能力とを総合的に働かせて「思考力、判断力、表現力等」を育成する指導を想定し、「表現・鑑賞」のページとして構成しています。

また、それぞれの題材で何を学ぶのか、学習する生徒たちが常

に意識して取り組めるように、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三本柱に対応して「学びの目標」を設定し全ての題材のページに明示しています。

# 3 新指導要領での「学習評価」 観点の趣旨を理解する

2022年度から学年進行で実施される新学習指導要領の下で、学習評価はどう変わるのでしょうか。教科書の題材を例に、評価について考えてみましょう。



## 目標と内容構成等の関連

| 領域等    | 項目          | 事項（指導内容）                    | 目標との関連         |
|--------|-------------|-----------------------------|----------------|
| A 表現   | (1) 絵画・彫刻   | ア.感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想 | 「思考力、判断力、表現力等」 |
|        |             | イ.発想や構想をしたことを基に創造的に表す技能     | 「技能」           |
|        | (2) デザイン    | ア.目的や機能などを考えた発想や構想          | 「思考力、判断力、表現力等」 |
|        | メ(3) デジタル表現 | イ.発想や構想をしたことを基に創造的に表す技能     | 「技能」           |
|        |             | ア.映像メディアの特性を踏まえた発想や構想       | 「思考力、判断力、表現力等」 |
| B 鑑賞   | (1) 鑑賞      | ア.美術作品などに関する鑑賞              | 「思考力、判断力、表現力等」 |
|        |             | イ.美術の働きや美術文化に関する鑑賞          | 「知識」           |
| （共通事項） |             | ア.造形の要素の働きの理解               | 「知識」           |
|        |             | イ.全体のイメージや作風、様式などで捉えることの理解  |                |

「学びに向かう力、人間性等」は、「A表現」、「B鑑賞」及び（共通事項）を指導する中で、一体的、総合的に育てていく

## なぜ3観点の 評価なのか

学習評価をなぜ行うのか。通知表の評定につながることは勿論のことですが、今一度この評価について考えてみたいと思います。

学習指導要領の改訂では、学習したこと、「何ができるようになったのか」という視点から、全教科等の目標や内容が「知識及び技能」「思考力、判断力、

表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱で再整理されました。芸術科（美術）の目標と内容構成の関連は上の表のようになっています。

また、学習評価については、指導したことを評価し、評価したことを指導に生かしていく『指導と評価の一体化』が強調されています。ですから、上の『各教科における評価の基本構造』のように目標の三

つと対応して学習評価の観点も3観点を整理されたのです。

これまでの4観点と、今回の3観点による評価の観点の趣旨を比較してみると、左の表のようになります。ここで特に留意したいのは、「知識」が今回の改訂で新設された（共通事項）と対応していることです。

## 評価の観点の趣旨

| 3観点（平成31年）                    |  | 4観点（平成22年）                                 |  |                                     |  |
|-------------------------------|--|--|--|-------------------------------------|--|
| 知識・技能                         | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度                              | 美術への関心・意欲・態度   |                                     |  |
|                               |  |  | 発想や構想の能力   | 創造的な技能                              | 鑑賞の能力                                      |
| ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 | ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。 | ・美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。 | ・美術の創造活動の喜びを味わい、美術や美術文化に関心をもち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。 | ・感性や想像力を働かせて主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。 | ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、表現方法を工夫して表している。 |
| ・感性や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 | ・感性や想像力を働かせて主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。                | ・感性や想像力を働かせて主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。        | ・感性や想像力を働かせて主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。                    | ・感性や想像力を働かせて主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。 | ・感性や想像力を働かせて主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。        |

※旧3観点と新3観点がどのように対応しているのかを同じ色で分類し、知識のみ、新設の（共通事項）に対応しているため白地でまた、思考・判断・表現の前半については、発想や構想の能力・鑑賞の能力の両方に対応しているため、二色で表している。

## 学びの目標から 評価規準を作成する

「人物を描く」の課題「自分を見つめて描こう」を例に見つめて描こう」を例に、指導計画を作成してみます。指導計画の作成には、まず目標の設定が必要となります。前述したように、指導と評価の一体化から、題材の目標と評価規準は表裏一体となります。多くの場合、目標の文末の「～する」を、「～している」とすることで、評価規準に

なります。

「学びの目標」と評価規準（文末を変えれば題材の目標）の関係は、左の表のようになります。なお、「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、忘れ物がない、遅刻しないなどではありません。課題で身に付けることに対し、自らの学習状況を把握し、試行錯誤しながらも粘り強く取り組むことができているか、などを評価することなのです。

よこ た まなぶ  
横田 学 京都市立芸術大学 名誉教授

兵庫県出身。1980年より京都府立学校教諭、京都府教育委員会指導主事を経て、2002年より京都市立芸術大学助教授、2007年教授、2020年名誉教授、高等学校学習指導要領（平成11年、21年、30年告示）【芸術（美術・工芸）編 美術編】改善協力者。



## 課題「自分を見つめて描こう」を例として

| 評価規準（例）  |   |   |   |
|--|---|---|---|
| 知識・技能  |   | 思考・判断・表現  |   |
| ・知識 構図や色彩などの性質や、それらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 | ・表現 自己を見つめたり、内面を探究したりしたことや考えたことなどを基にした自画像を描く表現の学習活動に取り組もうとしている。 | ・思考・判断・表現 教科書では様々な人物画の指導に対応しているが、この課題（自画像）をとおして学ぶ内容に絞って整理 | ・主体的に学習に取り組む態度 課題で設定した、知識・技能の獲得や思考力・判断力・表現力を身に付けるために、主体的に取り組もうとしているかを評価 |

「学びの目標」

知識は（「共通事項」と題材の内容、技能は使用する材料や用具（この課題では絵の具）などに対応させてより具体的に記述

教科書では様々な人物画の指導に対応しているが、この課題（自画像）をとおして学ぶ内容に絞って整理

課題で設定した、知識・技能の獲得や思考力・判断力・表現力を身に付けるために、主体的に取り組もうとしているかを評価